

一野砲射撃(内筒砲ヲ用ユ)	一陸戰ニ關スル要務	.....
別 科		
一拳銃	一小銃拳銃分解結合	一體操
一銃劍術	一裝填術	一柔術
一劍術	一號令	一軍歌
備 考	一本表ノ諸科目ハ必スシモ悉ク之ヲ教授スルヲ要セス各其基本部ニ於テハ掌 砲助手ノ實務ニ適切ナル事項ヲ實地ニ就テ教授スヘキモノトス 二本表諸科目ハ砲術練習所ニ於ケル掌砲兵教程ヨリ稍劣リタル程度ヲ標準ト シ教授スルヲ要ス	

第一三 各基本部及下士卒ノ定員ヲ有スル學校練習所ハ各自若ハ互ニ聯合シ左ノ事項ニ就

キ賞ヲ懸ケ技ヲ競ハシムルコトヲ得

一 内筒砲及小銃競點射撃

毎年一回

一 裝填術銃劍術

毎年一回

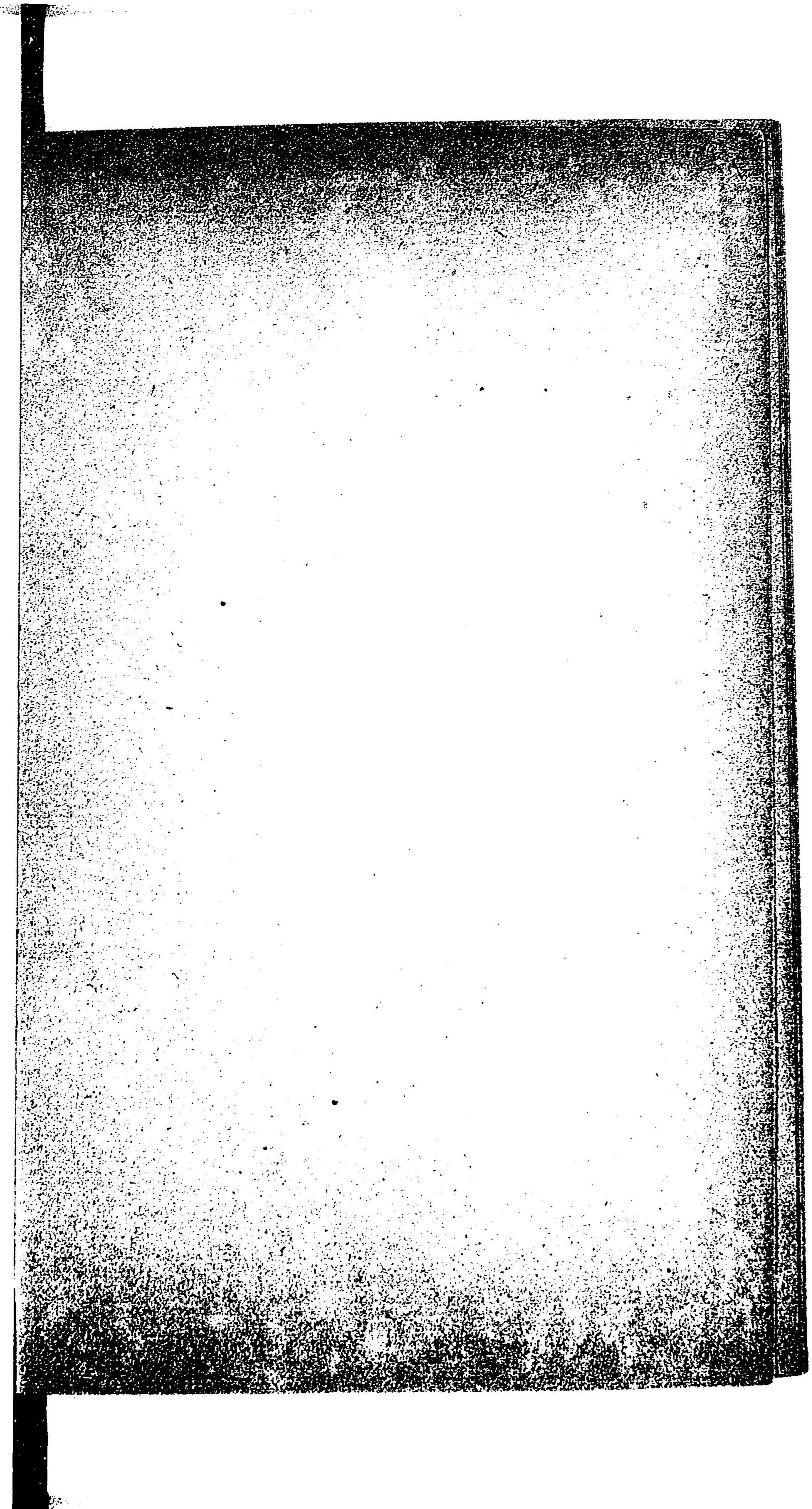
第一四 基本長ハ毎年五月盡日及十一月盡日マテノ教育ニ關スル報告ヲ六月十五日及十二月十五日マテニ調製シ進達スヘキモノナルカ故ニ教育主任(補助員)ハ豫メ適宜ノ簿冊ヲ備ヘ編制人員數練習時間若ハ其回数等ヲ詳記シ置クヲ要ス

第一五 本摘要第一三及掌砲助手教程ニ發射セシムヘキ發射彈數左ノ如シ

一 第一三ニ掲グル銃點射撃ニ於テ發射セシムヘキ内筒砲彈數ハ砲煩射撃規則ニ規定セル年額内トシ小銃彈數ハ艦團部隊ニ於ケル兵曹水兵ノ定員每一人ニ付キ三發ノ割合トス

二 掌砲助手教程ニ發射セシムヘキ小銃射撃彈數ハ海軍小銃射法教範ニ規定セル年額彈數以外ニ於テ兵員每一人ニ五十發拳銃射撃彈數ハ同十二發又内筒砲彈數ハ砲煩射撃規則ニ規定セル年額内トス











治 年度距離目測成績記入表

問 數	平均得點										名部本基
											類 種
											離 距 實
											離距測目
											點 得
										名部本基	
										類 種	
										離 距 實	
										離距測目	
										點 得	
										名部本基	
										類 種	
										離 距 實	
										離距測目	
										點 得	
										名部本基	
										類 種	
										離 距 實	
										離距測目	
										點 得	
										名部本基	
										類 種	
										離 距 實	
										離距測目	
										點 得	
										點得均平	

スルトキハ砲術長若クハ砲術長ノ職務ヲ執行スル將校ハ其ノ最後ノ成績ニ捺印スヘシ  
端舟、陸岸、陸上等ノ事項ヲ記スヘシ











(砲術要誌様式)

# 砲術要誌

自明治 年 月 日  
至明治 年 月 日

陸軍隊等名

「注意」

「本誌ハ美濃紙半葉大ニシテ縦十五行野ノ西洋紙  
二百頁表紙及赤紙ヲ除クテ以テ編制シ紙數ヲ各部ニ配付ス  
ルコト本様式中ニ記載セル如クス」







(紙數二十七ページ)

記事

第二部

目錄

(紙數三十五ページ)

年月日 記事

第三部

目錄

(紙數百十一ページ)

年月日 記事



欠

MISSING



## 驗濕器說明及使用法

### 觀測ノ目的

裝藥火工品類ハ温度濕氣ノ爲メニ効力ヲ變シ砲銃ノ如キハ延テ命中ニ大關係ナリ及ホスノ  
ナラス甚シキニ至テハ無煙火藥綿火藥ノ如キ終ニ自燒若ハ爆發ノ不幸ヲ見ルコトナキヲ  
モス例ハハ火藥庫(綿火藥庫彈藥包庫、彈丸庫、(下層火藥裝填庫)等ヲ含有ス以下之ニ依リ

内ノ温度高キニ過クルトキハ之カ爲メニ彈丸ノ初速增加シテ彈道具闊シ若ハ庫中ノ壓力  
加シテ砲銃ノ命數ヲ短縮セシムルニ至ル而シテ無煙火藥、綿火藥ノ如キハ高温ノ爲メ  
分解シテ熱ヲ生シ若ハ自ラ發火スルコトアリ又濕氣多キニ失スルトキハ火管類ノ不發ヲ來  
スコトナキヲ保セス故ニ主管者ハ常ニ宜シク所管火藥庫ノ性質ヲ知悉スルニ勉メテ  
ヲ使用シテ庫内温濕ノ度ヲ檢シ以テ火藥庫ノ完備改良ヲ圖リ且貯藏品ノ受クル損害ヲ排除  
スルコトニ勉メサル可ラス

### 觀測ノ方法

驗濕器ハ空氣中ノ温度及濕氣ヲ觀測シ得ルノ外向露點蒸發氣ノ壓力濕氣ノ重量等ヲ測定シ  
得ヘキモノナリト雖艦艇ニ於テ火藥庫ヲ點檢スルニハ温度及濕氣ノ觀測ノミヲ以テ足レリ  
トス温度及濕氣ノ觀測ハ毎日午前八時及午後二時ニ於テ行フヲ例トス該器備付ノ位置ハ庫  
内ヲ主トスト雖燈光ノ都合等ニ依リ給與室等ニ於テスルモ可ナリ驗濕器ノ備付數不足シテ  
之ヲ數庫ニ兼用スル艦艇ニ在テハ前記ノ時間前後ニ觀測シタルモノヲ記入スルモ妨ケナシ  
ト雖一驗濕器ヲ甲庫ヨリ乙庫ニ兼用スルトキハ該器ノ蓋ヲ開キ置キ約二十分ヲ經タル後觀  
測スヘシ甲號温度及濕氣表ハ毎日ノ温度及  
濕氣ヲ記入シ本艦艇ニ保存スヘシ

庫内觀測ノ目的ハ最高、最低ノ温度最多、最少ノ濕氣ヲ探究スルニ在ルヲ以テ普通觀測所



ニ於テスルカ如ク毎日一定時間ニ觀測シテ之ヲ報告スレハ其義務ヲ了セリト思惟スル如キ誤解ナキヲ要ス再言スレハ連日ノ汽罐點火熱帶地方又ハ寒帶地方ノ航行中ノ如キハ前記午前八時及午後二時ノ外ニモ疑シキ場合ニハ時々觀測ヲ行ヒ以テ精密ニ火藥庫ノ缺點ヲ調査スルト共ニ貯藏品ノ損害ヲ未發ニ豫防スルヲ怠ルヘカラス之ヲ要スルニ無煙火藥、乾綿火藥ハ約華氏九十度(攝氏三十二度)以上ノ高温ヲ忌ミ雷管、擊發火管、爆發信管等ノ如キ火工品及濕綿火藥等ハ氷點以下若ハ氷點附近ノ低温ヲ忌メリ濕氣ハ普通彈藥包庫ニ於テハ八十五「パーセント」以下ナルヲ可トス故ニ華氏三十二度乃至九十度以外ノ温度又ハ八十五「パーセント」以上ノ濕氣ヲ認メタルトキハ先ツ相當ノ手當ヲ施スヘキハ勿論ニシテ例ヘハ高温ニ對シテハ送風ヲ命シテ熱ノ發生傳道ヲ防キ多濕ニ對シテハ庫扉窓牖ノ開閉ニ注意シ乾燥法ヲ執ル等ノ如ク當ニ適宜ノ手段ヲ講スヘシト雖モ斯ル手段ハ觀測中又ハ觀測前ノ行フヘカラス若シ此際強テ行ハ、觀測ノ成績ハ不正確トナリ此誤報ノ爲メニ却テ取ルヘキノ手段ヲ誤リ終ニ危險ニ陥ルコトナキヲ保セス故ニ觀測ハ實際ノ探究ヲ期スルコト急々要ナリトス

温度及濕氣ノ報告

温度及濕氣ハ三十四年海總第一五八二號ノ訓令ニ基キ毎月ノ最高温度及最低温度並ニ最高濕氣及最少ノ濕氣ヲ每半期ツ、取纏メ四月ヨリ九月ニ至ル前半期分ヲ十月十五日迄ニ又十月ヨリ三月ニ至ル後半期分ヲ四月十五日迄ニ別紙乙號書式(三十六年海總第一二二六號訓令書式)ニヨリ本官鎮守府ヲ經テ艦政本部ニ提出スヘシ華氏三十二度乃至九十度以外ノ温度若ハ八十五「パーセント」以上ノ濕氣アルヲ發見シタルトキハ特ニ精密ニ觀測シ且其成績ヲ右報告書ノ備考欄内ニ記入スヘシ而シテ温度愈々昇騰シテ遂ニ百度ニ達シタルトキハ必ズ之ヲ軍艦、水雷艇等ノ現狀報告書中ニモ記入シ以テ特ニ當路者ノ注意ヲ促スヲ要ス汽罐點火セサル場合ニ在テハ最高温度ハ通例午後二時頃ニ發生シ又最低温度ハ日出前ニ其極度ニ達シ而シテ午前八時頃ハ概ネ一日中ノ平均温度ヲ呈スルモノタリ故ニ最低温度ハ本來日出前ニ測定スルニ若カスト雖モ右ノ如ク規定スルトキハ艦艇ニ於テ少カラサル手數ヲ要スルヲ恐レ午前八時ト午後二時トノ二回觀測ニ規定シタル者トス故ニ爰ニ普通ニ謂フ所ノ最高最低温度及最多最少濕氣ナルモノハ規定時間ニ於ケル比較的最低温度及最多最少濕氣ニシテ眞ノ最高最低温度及最多最少濕氣ニアラサルコトヲ記憶スヘシ右ノ理由ニ依リ定時觀測ニ於テ不良火藥庫ヲ發見シタルトキハ該庫ニ對シテ嚴密ニ定時以外ノ觀測ヲナシ以テ眞ノ最高最低温度並ニ最多最少濕氣ヲ探究シ之ヲ報告スルコト益々必要ナルモノトス

驗濕器ノ檢査修理及引換



驗濕器ハ三十四年一月二十六日達第五號ヲ以テ兵器ニ編入セラレタルヲ以テ之カ検査修理  
及引換ハ普通兵器ノ取扱ニ毫モ異ナル所ナシ但シ寒暖計ハ概不歲月ノ經過ト共ニ收縮シテ  
内容ヲ減シ爲メニ次第ニ高度ヲ示スノ傾アリ又濕氣計ノ如キモ塵芥等ノ爲メニ不具合トナ  
リ易キモノナリ故ニ右ノ兩器ハ特ニ町重ニ取扱ヒ尙時々基本品ト比較シ以テ示度ヲ調整セ  
シムルカ又ハ固有ノ差ヲ檢出シテ之ヲ示度ヨリ加減スルコト極メテ肝要ナリ故ニ毎年一回  
兵器廠又ハ造兵廠ニ検査ヲ請求シ又各艦艇ニ於テモ時々一室内ニ於テ示度ノ高低ヲ比較檢  
査シ以テ誤差ノ爲メニ誤報ヲナシ居ルカ如キコトナキヤ否ヤヲ査定スルヲ忘ルヘカラス但  
シ多數ノ寒暖計、濕氣計ハ概不同一ノ度ヲ示サ、ルモノニシテ寒暖計ニ在テハ二度濕氣計  
ニ在テハ三%以内ノ差異ヲ示スコトアリ故ニ使用者ハ之カ誤差ヲ知悉シ之レヲ示度ヨリ加  
減スルヲ要ス



表 一 第

ノ常尋ヒ從ニ線抗抵小最ノ種諸  
藥裝ノ室藥常尋ルケ於ニ地土  
( $C = 1,50 h^3$ )

抗 最 小 線	藥 裝	抗 最 小 線	藥 裝	抗 最 小 線	藥 裝
m.	kil.	m.	kil.	m.	kil.
1,00	1,50	4,10	103,38	6,20	357,50
1,50	5,07	4,20	111,12	6,30	375,08
2,00	12,00	4,30	119,27	6,40	393,21
2,20	16,08	4,40	127,77	6,50	411,95
2,40	20,73	4,50	136,70	6,60	431,25
2,50	23,45	4,60	146,01	6,70	451,14
2,60	26,37	4,70	155,73	6,80	471,65
2,70	29,52	4,80	165,89	6,90	492,77
2,80	32,93	4,90	176,48	7,00	514,50
2,90	36,59	5,00	187,50	7,10	536,87
3,00	40,50	5,10	198,98	7,20	559,88
3,10	44,69	5,20	210,92	7,30	583,53
3,20	49,19	5,30	223,32	7,40	607,83
3,30	53,91	5,40	236,19	7,50	632,82
3,40	59,95	5,50	249,57	7,60	658,47
3,50	64,31	5,60	263,43	7,70	684,80
3,60	69,99	5,70	277,79	7,80	711,83
3,70	75,98	5,80	292,67	7,90	739,56
3,80	82,31	5,90	308,07	8,00	768,00
3,90	88,98	6,00	324,00	9,00	1098,50
4,00	96,00	6,10	340,00	10,00	1500,00

表 二 第

C 藥裝ルケ於ニ室藥量過及量微ルナ知已比 n  
小最ノ室藥常尋ルス致一ニ藥裝此及  
數係ルフ用ニ爲ルム求テ h'線抗抵  
 $C' = C(\sqrt{1+n^2}-0,41)^3$   $h' = h(\sqrt{1+n^2}-0,41)$

n ノ 値	$\frac{\sqrt{1+n^2}-0,41}{\text{値}}$		n ノ 値	$\frac{\sqrt{1+n^2}-0,41}{\text{値}}$	
	$\sqrt{1+n^2}-0,41$	$(\sqrt{1+n^2}-0,41)^3$		$\sqrt{1+n^2}-0,41$	$(\sqrt{1+n^2}-0,41)^3$
0,10	0,59	0,21	1,60	1,47	3,22
0,20	0,61	0,23	1,70	1,56	3,80
0,30	0,63	0,26	1,80	1,65	4,50
0,40	0,66	0,30	1,90	1,78	5,25
0,50	0,70	0,35	2,00	1,82	6,08
0,60	0,75	0,43	2,10	1,91	7,00
0,70	0,81	0,53	2,20	2,00	8,10
0,80	0,87	0,66	2,30	2,09	9,25
0,90	0,93	0,82	2,40	2,19	10,50
1,00	1,00	1,00	2,50	2,28	11,86
1,10	1,07	1,25	2,60	2,37	13,40
1,20	1,15	1,52	2,70	2,47	15,07
1,30	1,23	1,86	2,80	2,56	16,80
1,40	1,31	2,25	2,90	2,65	18,75
1,50	1,39	2,69	3,00	2,75	20,80

線抗抵小最ノ室藥量過ハ或量微ハ h  
藥裝ノ室藥常尋ルス有テ線抗抵小最キシ等ニ h ハ C

表 三 第

ルケ於ニ藥火ノ二三八個零重比稱斗  
徑内ノ筐藥形方立ルス適ニ藥裝

藥 裝	邊 筐	藥 裝	邊 筐	藥 裝	邊 筐
kil.	m.	kil.	m.	kil.	m.
1,00	0,11	20,00	0,29	200,00	0,63
2,00	0,14	25,00	0,32	250,00	0,67
3,00	0,16	30,00	0,34	300,00	0,72
4,00	0,17	40,00	0,37	350,00	0,75
5,00	0,19	50,00	0,40	400,00	0,79
6,00	0,20	60,00	0,42	450,00	0,82
7,00	0,21	70,00	0,44	500,00	0,85
8,00	0,22	80,00	0,46	550,00	0,87
9,00	0,23	90,00	0,48	600,00	0,90
10,00	0,24	100,00	0,50	650,00	0,92
12,00	0,25	120,00	0,53	700,00	0,95
14,00	0,26	140,00	0,56	750,00	0,97
16,00	0,27	150,00	0,57	800,00	0,99
18,00	0,28	175,00	0,60		











溫 度 及 濕 氣 表

明 治 年 度 半 期

最 高 最 低 溫 度 表														備 考
月 別	所 在 地	日 次	天 候	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	
庫 名	溫 度	最 高	最 低	最 高	最 低	最 高	最 低	最 高	最 低	最 高	最 低	最 高	最 低	
藥 庫														
藥 庫														
藥 庫														
藥 庫														
藥 庫														
藥 庫														

最 多 最 少 濕 氣 表													
月 別	所 在 地	日 次	天 候	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
庫 名	濕 氣	最 多	最 少	最 多	最 少	最 多	最 少	最 多	最 少	最 多	最 少	最 多	最 少
藥 庫													
藥 庫													
藥 庫													
藥 庫													
藥 庫													
藥 庫													

(注意) 溫度ハ可成華氏ヲ用フヘシ若シ攝氏ヲ用フルトキハ初記攝氏度數ノ右方ニC字ヲ

軍艦政本部ニ差出スヘシ  
 至九月 自四月 八十月十五日マテニ後半  
 自三月 自十月 八四月十五日マテニ在籍鎮守府ヲ經テ海  
 甲號溫度及濕氣表ニ依リテ毎月最高最低溫度及最多最少濕氣ヲ記入シ置キ前半期  
 附スヘシ

乙號 (用紙美濃版模造紙)

明 治 年 月 日 報



### 彈藥庫及水雷藥庫注水裝置取扱心得

明治三十五年七月廿九日  
海軍省第一三〇號

第一 火藥庫漲水弁ヲ別チ漲水基弁及漲水支弁トス漲水基弁トハ漲水用管中海水即チ他外ニ最モ近キ所ニ取附ケアル弁ヲ云ヒ漲水支弁トハ同管中彈藥庫ニ最モ近ク裝置サル弁ヲ云フ

備考 彈藥庫相接近スルトキ漲水裝置ハ基弁ノ所ヨリ支管ニ由テ各庫ニ通スルモノ多ク又外ニ渠内漲水基弁アリテ上甲板ノ漲水管ニ接續シ入渠中漲水基弁ノ用ヲナスモノアリ

第二 軍艦職員勤務令第一章第百〇四條同第百〇五條ヲ確守シ如何ナル場合ト雖艦長若ハ首席將校ノ許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ開クコトヲ得ス

第三 戦闘中彈藥庫漲水弁ノ鍵ハ艦長ノ指定スル將校ヲシテ之ヲ携帯セシメ各漲水弁ニ配員シ漲水基弁及漲水支弁ヲ「アンコック」シ置キ何時ニテモ漲水ニ差支ナカラシムル如クナシ置クヲ例トス

第四 渠内漲水基弁ノ外各弁ハ彈藥庫以上ノ甲板ヨリ開閉シ得ルノ裝置ヲ有スルヲ例トスルカ故ニ其附近ニ開閉用「ハンドル」ヲ格納シ船匠長(船匠師)ヲシテ之ヲ保管セシメ砲術



長之ヲ監視スルモノトス

第五 漲水支弁ハ事情ノ許ス限リ毎週一回之カ開閉ヲ試ムヘシ然シテ通常戦闘操練ノ日ニ於テ大スヲ例トス

第六 漲水基算ハ毎三ヶ月一回之カ開閉ヲ試ミ同時ニ漲水支弁ヲ最モ速ニ開閉シ漲水ノ如何ヲ檢スルモノトス

但シ第五項第六項ノ事ヲナストキ彈藥庫ニ水ヲ散セサルタメ充分ノ注意ヲ要ス

第七 軍艦職員勤務令ニ明分アル如ク入渠ノ際ハ必ス各弁ヲ檢査シ時日ノ許ス限リ分解手入ヲナスモノトス

第八 入渠中尙ホ艦内ニ彈藥ヲ貯藏スルトキハ必ス渠内注水弁ヲ開キ渠外ヨリ「ホーズ」ヲ導キ何時ニテモ彈藥庫ニ漲水シ得ルノ裝置ヲナスモノトス渠内漲水弁ヲ有セサル艦ハ止ヲ得サル場合ノ外彈藥類塔載ノ儘入渠スルヲ得ス若シ塔載ノ儘入渠シタルトキハ必ス漲水ノ設備ヲナスモノトス

第九 檢査ノ目的ヲ以テ漲水基算漲水支弁ヲ開閉セシムルトキハ砲術長主トシテ之ニ任機關長ハ之ニ立會フモノトス

但シ開閉ハ船匠長(船匠師)ヲシテ之ヲサシメ砲術長ハ彈藥庫ニ上等機關兵曹ハ弁ヲ

ノ部分ニ各注意セシムル如クスルヲ得トス

### 水雷艇防禦部署摘要 (常艦例規)

第一 水雷艇防禦部署ニ於テ各砲ハ其旋回角度ノ中央(時宜ニヨリ敵ノ來襲ノスベキ疑アル方向)ニ旋回シ左ノ如ク照尺ヲ整ヘ置クモノトス

一 十二斤砲以上ハ 二千米突

二 四十七密米砲以下 千五百米突

但シ敵ニ對シ前進探海燈又ハ障礙物等ノ防備アルカ若ハ敵ヲ認メテ其距離ヲ測定シ得ルトキハ此限リニアラス

第二 水雷艇防禦部署ニ於テハ特令アルノ外左記ノ彈藥ヲ各砲側ニ準備スルモノトス

一、八 尹 以上 適 宜

二、十五 拇 砲 十 發

三、十二 拇 砲 十五發

四、十二斤砲以下 二十發以上

但シ操練ニ於テハ適宜彈數ヲ減少スルコトヲ得



### 端舟軍裝部署摘要 (常艦例規)

- 第一 端舟軍裝(敵艦捕獲端舟軍裝)ニ於テハ各艦ノ群艇其本艦ヲ離ル、前ニ艇員及狙撃手ニハ小銃彈藥拳銃携帶員ニハ拳銃彈藥各三十發宛ヲ配給スヘシ
- 第二 敵艦捕獲端舟軍裝ニ於テ特令ナキトキハ艇砲及之ニ屬スル彈藥器具ヲ搭載スルヲ要セス

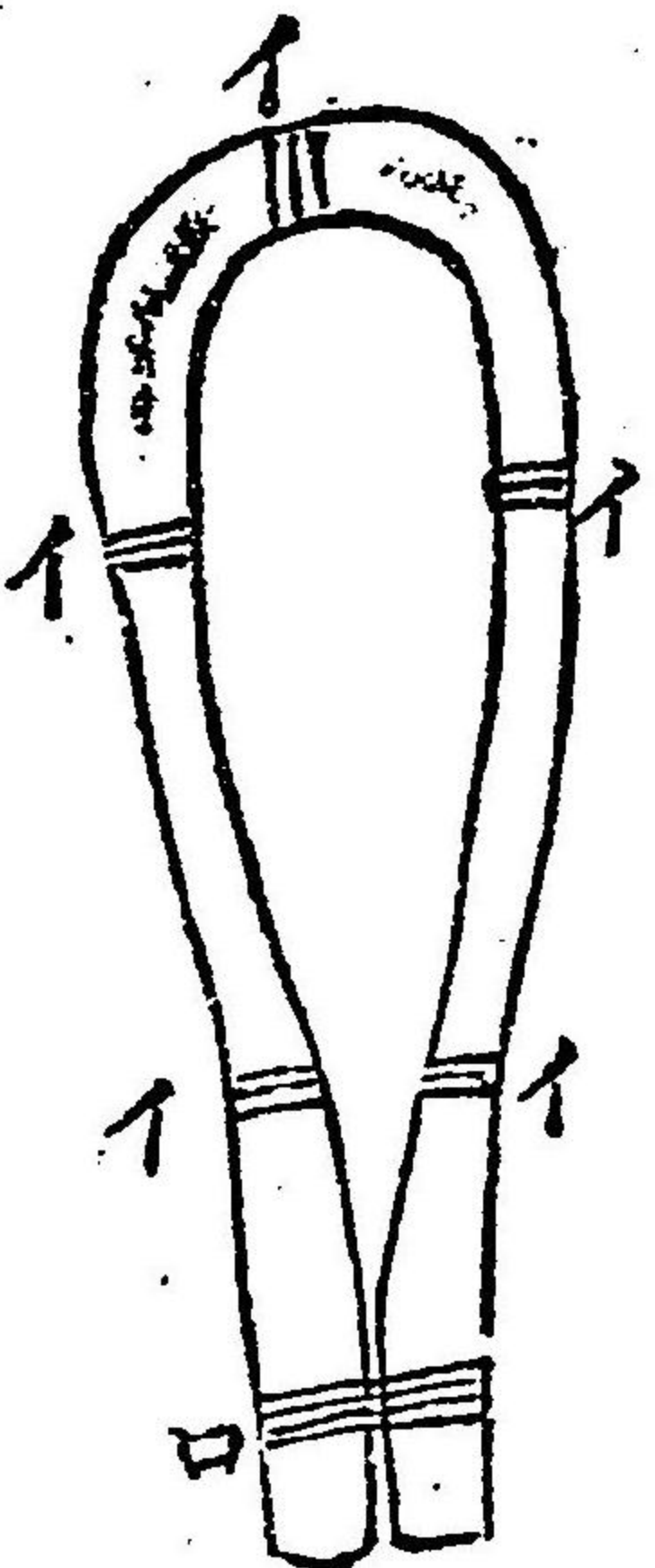
### 聯合艦隊陸戰隊規則摘要

- 第一 附屬部隊中ノ下士卒携帶武器ハ拳銃(一番形若ハ)トス
- 第二 携行彈藥ハ特令ナキトキハ左ノ標準ニ依ル
  - 小銃一挺ニ付 百八十發(百二十發ヲ亂ニ收メ殘餘ハ擲棄スル)
  - 小銃豫備彈藥一小隊ニ對シ (千二百六十發入三箱若ハ八百四十發入三箱)
  - 拳銃一挺ニ付 四十發(二十發ヲ亂ニ收メ殘餘ハ擲棄スル)
  - 野砲一門ニ付 一前車分(適宜ニ三箱ヲ増載ス)
  - 野砲豫備彈藥 海軍砲隊律式第二百三ノ要領ニ從フ

### 第三 正作隊(組四名)ノ携行スル正作器具ハ左ノ如シ

- 頭 鋏 一個
- 圓 鋏 三個
- 手 斧 一個
- 鋸 刀 一個
- 鷹 刀 一個
- 備考

一 陸戰隊員等ノ外套ハ其表ヲ外ニシ左圖ノ如ク捲縛スルモノトス



(イ)ハ「クローストップ」  
 (ロ)ハ折メス紐若ハ之ニ類似ノ紐

二 陸戰隊員等捲縛シタル外套及水筒ヲ帶フルニハ左肩ヨリ右脇ニ繩囊ヲ帶フルニハ右肩ヨリ左脇ニナスモノトス但シ准士官以上ノ帶方(水筒ヲ除ク)之ニ反ス



# 大砲射角略圖調製標準 (三十五年三月旗普)

二四二

- 一 「スケール」  $\frac{1}{480}$
- 二 平面圖ノ上半ニ上甲板以上ノ備砲ヲ現ハスコト  
同下半ニ中甲板ノ備砲ヲ現ハスコト
- 三 正横線ヨリ射角角度ヲ記ス
- 四 側面圖備砲及探海燈ノ位置ヲ現ハス
- 五 射角及射弧線ノ色別
 

十二尹及八尹砲	黒太
六尹及四、七尹砲	藍
十二斤砲	赤
三斤以下ノ砲	黒細
六 射弧ノ半徑	インチ
十二尹及八尹砲	$\frac{3}{4}$
六尹及四、七尹砲	$\frac{1}{2}$

- 十 三斤砲  $\frac{1}{3}$
- 三斤以下ノ砲  $\frac{1}{4}$
- 七 集合發射圈ハ別圖ニ做フモノトス(但シ弧線ノ數ハ砲ノ數ニ從フヘシ)圈ノ色別ハ射弧線ノ色別ニ同シ
- 八 各圖ノ上ニハ其艦名下ニハ其調製者ノ官姓名ヲ署スヘシ
- 九 用紙礬水引美濃紙  
(別圖ハ略ス)

## 砲煩射撃ノ監的及成績表進達ニ關スル件

(三十五年七月旗普)

- 一 海上標的ニ對スル彈着前後ノ測定ハ側方監的ニ由ルヲ例トス若シ之ニ由ル能ハサルトキハ其理由ト實行方法トヲ成績表備考欄内ニ明記スルヲ要ス  
側方監的トハ他艦或ハ汽艇端舟等ヲ標的ノ右(左)適當ノ距離ニ位置セシメ標的前後ノ彈着ヲ測定スルヲ謂フ
- 二 砲煩射撃ヲ施行シタルトキハ其都度成績表(第二表例乙)ノ謄本一通ヲ進達スルヲ要ス

二四三



### 横須賀海軍工廠造兵部武庫ニ於ケル兵器ノ授受供給等ニ關スル事務取扱方ノ件

- 一 兵器ノ要求還納等ノ事務其他武庫ヘノ照會類 造兵部官廳内武庫
  - 二 砲術長主管兵器現品ノ授受 小海元砲銃庫
  - 三 同十二斤以上彈丸火工品授受 同
  - 四 射的場貸借ニ關スル事務 同
  - 五 砲術長主管彈藥包裝藥包現品ノ授受 比與宇火藥庫
- 兵器ノ要求及還納票類ハ之ヲ要求若ハ還納セントスル前日ニ武庫ニ達スル様同送スル事但シ至急ヲ要スルモノハ此限リニアラス

### 艦船及兵器修理引換等施行手續摘要 (横須賀例規)

第一 艦船其他各部ノ長兵器ノ修理改造ヲ要スルトキハ嚴密ニ之ヲ調査シ必要缺クヘカサルモノ若ハ到底部下ノ手ヲ以テ施行シ能サル工事又ハ部下ノ手ヲ以テ修理ヲ加ヘテモ満足ノ成績ヲ得サルモノニ限リ海軍工廠長ニ請求スヘシ

第二 兵器修理等ノ工事ハ戰國航海ニ差支ヘカサル限リ役務ノ都合時機ノ如何及工事ノ難易等ヲ酌量シ一括シテ數回ニ涉サル如ク請求シ艦船ヲシテ絶ヘス修理ノ下ニ在ル如ク修繕ナカラシムルヲ要ス

第三 兵器ノ修理改造等ノ請求書ニハ品名、數量及理由ヲ簡明ニ記載シ次ノ如ク區別ス

#### 一 修理

#### 二 改造増設及位置變更

- 兵器ニシテ番號若ハ符號アルモノハ之ヲ明記スヘシ
- 第四 彈藥並ニ裝藥火工品ノ検査請求ハ供用員數供給處名其他出來得ル限リ製造所名並ニ製造年月日種目番號及裝填所名並ニ裝填年月日ヲ記載スヘシ
- 第五 兵器修理請求ノ理由ニハ判定シ得ル限リ故障ノ起リタル原因其局所及當時ノ狀況ヲ記載スヘシ
- 第六 兵器ノ改造、増設、變更請求ノ理由ニハ之ヲナサレハ戰國航海ノ役務ニ及ボス程度及施行後得ル所ノ利益ヲ詳記スヘシ
- 第七 兵器ノ改造、増設、變更ハ成ヘク機關總検査若ハ罐入換ノ時機ヲ選ムヘシ



### 大砲塗換ハ艦團員ニ於テ施行ノ件 (三十四年七月横鎮)

大砲塗換方ニ關シ艦政本部長ヨリ通知ノ次第モ有之候ニ付自今修理其他ノ場合ニ於テ塗換ヲ要スルトキハ成ヘク其艦團員ニ於テ施行スル義ト心得ヘシ

### 入渠中禁止ノ事項摘要 (三十二年三月官房)

艦船入渠中ハ船體ニ激震ヲ與フル如キ所業ヲナスヘカラサルハ勿論ナリト雖殊ニ左記ノ事項ハ堅ク禁止ス

- 一 工事上必要アル外五噸以上ノ重量ノ移動増減
- 一 大砲操練及重砲ノ旋回

### 艦船爆發物搭載ノ儘軍港、要港第一區ニ入り

### 又ハ入渠セントスルトキ注意ノ件

艦船爆發物搭載ノ儘軍港、要港第一區ニ入り又ハ入渠セントスルトキハ左ノ諸項ニ注意セヨ

- 一 紐帶火藥、濕綿火藥、下海炸藥、通常炸藥、雷管、爆發物以外ノ火工品ハ其ノ位置不正ナルモキハ即チ砲ノ精神ヲ失フモノニシテ其甚シキハ砲ヲシテ無能タラシムルモノナルハ言ヲ俟ス故ニ照準器ノ大切ナルコト今更喋々スルノ要ナシト雖今回吳造兵廠ニ於テ軍艦八島及常磐兩艦ノ各砲照準器検査ノ結果其數十門ハ照準器取附螺筒(偏心軸及圓筒ノモノ)等ニ誤差アルヲ發見候趣キ報告ニ接シ候元來照尺照星等ハ取扱上最モ嚴密ナル注意ヲ要スルモノナルニモ不均斯ル誤差ヲ生シタルハ全ク取扱者ノ不注意ヨリ來シタルモノト認メ候而シテ照準線ト照準線ノ一致セサルハ命中ニ不確實ヲ來スハ勿論ニシテ實ニ不容易義ト存候條取扱上充分ノ注意ヲ加シ
- 一 紐帶火藥、濕綿火藥、下海炸藥、通常炸藥、雷管、爆發物以外ノ火工品ハ其ノ位置不正ナルモキハ即チ砲ノ精神ヲ失フモノニシテ其甚シキハ砲ヲシテ無能タラシムルモノナルハ言ヲ俟ス故ニ照準器ノ大切ナルコト今更喋々スルノ要ナシト雖今回吳造兵廠ニ於テ軍艦八島及常磐兩艦ノ各砲照準器検査ノ結果其數十門ハ照準器取附螺筒(偏心軸及圓筒ノモノ)等ニ誤差アルヲ發見候趣キ報告ニ接シ候元來照尺照星等ハ取扱上最モ嚴密ナル注意ヲ要スルモノナルニモ不均斯ル誤差ヲ生シタルハ全ク取扱者ノ不注意ヨリ來シタルモノト認メ候而シテ照準線ト照準線ノ一致セサルハ命中ニ不確實ヲ來スハ勿論ニシテ實ニ不容易義ト存候條取扱上充分ノ注意ヲ加シ
- 一 通常火藥、乾綿火藥、信管類、彈藥包、號火、火莖其他火工品ハ其艦船軍港、要港第一區ニ入ル場合ニ在テハ前項ニ同シ但シ入渠若ハ陸岸ニ繫維スルトキハ必ス之ヲ卸ス

### 砲煩照準器取扱上注意ノ件 (三十五年十二月艦本)

砲煩ニ備フル所ノ照準器ハ砲ノ精神ナルカ故ニ照準器ノ位置不正ナルモキハ即チ砲ノ精神ヲ失フモノニシテ其甚シキハ砲ヲシテ無能タラシムルモノナルハ言ヲ俟ス故ニ照準器ノ大切ナルコト今更喋々スルノ要ナシト雖今回吳造兵廠ニ於テ軍艦八島及常磐兩艦ノ各砲照準器検査ノ結果其數十門ハ照準器取附螺筒(偏心軸及圓筒ノモノ)等ニ誤差アルヲ發見候趣キ報告ニ接シ候元來照尺照星等ハ取扱上最モ嚴密ナル注意ヲ要スルモノナルニモ不均斯ル誤差ヲ生シタルハ全ク取扱者ノ不注意ヨリ來シタルモノト認メ候而シテ照準線ト照準線ノ一致セサルハ命中ニ不確實ヲ來スハ勿論ニシテ實ニ不容易義ト存候條取扱上充分ノ注意ヲ加シ



へ且其着色シタルト否ヲサルトナ問ハス總テ各部ヲ研磨スヘカラス(黃銅ノ部ヲ除クノ外  
常ニ微油ヲ施スヲ良トス)又萬止ムヲ得サル場合ノ外照準器ヲ分解スヘカラス  
夜中照準器モ同様トス

### 注意箋ヲ貼附シタル彈藥火工品ノ取扱方ハ

#### 一層注意ヲ要スル件 (三十五年十二月艦本)

彈藥火工品類ノ取扱ニ就テハ充分ニ注意慎重ヲ加フヘキハ勿論ニ有之殊ニ注意箋ヲ貼布シ  
タルモノハ他日試験検査等ノ場合ニ識別ヲ容易ナラシムルモノニ有之候ニ付一層周到ノ注  
意ヲ以テ取扱ヒ注意箋ヲ破損セシムヘカラス

#### 砲甲板ニ實用彈ヲ備フルニ及サル件 (三十五年六月海總)

艦船砲甲板ニ備フヘキ彈數ニ關シ及訓令置候處自今實用彈ハ備ルニ及ハサル義ト心得ヘシ

#### 右 同

(三十五年六月艦本)

今般海總第三三四號ヲ以テ砲甲板ニ實用彈ヲ備ヘサル事ニ訓令相成候處右ノ事ヲ下欄

條ニ使用スルニ依リ信管孔ニ銃筒ヲ生ズルトキハ信管ノ端ノ圓錐ニシテ之ヲ充分  
サレハ不慮ノ害ヲ與スニ依リ是等ノ害ヲ豫防センカ爲メノ御旨趣ニ有之候處テハ  
上彈庫内狹隘ニシテ定數ヲ貯藏シ能サル艦船ニ在テハ砲塔及彈藥通路等ニ於テ雨露  
等ニ濡潤セサル様充分ノ保護ヲ施シ發射ニ臨ミ遺憾ナカラシムル様蓄ヘ得ル場所ニ列  
差支ナキモノトス

### 速射砲用電氣火管貯藏注意ノ件 (三十四年一月艦本)

速射砲用電氣火管ヲ藥莖ニ螺裝シ貯藏中白金線火橋切斷ノタメ不發ヲ生スルモノ有之其報  
告ニ接スル一再ニ止ラス目下原因取調中ニ候得共右ニ關シテハ製造上注意ヲ要スルハ勿論  
使用者ニ於テモ左ノ各項ニ就キ充分注意ヲ加フヘシ

- 一 各艦艇内彈藥庫ノ構造ニ應シ戰闘ニ差支ナキ限リハ藥莖ニ螺裝シ置サルコト
- 一 電氣火管筐ハ成ヘク火管使用ノトキ迄蓋ヲ開カサルコト
- 一 茨底換栓中電氣火管ト同形ナラサルモノハ火管ヲ螺裝スル前豫メ同形ノ木鎖ヲ用ヒテ  
裝藥ヲ押擴ムルコト



村田連發銃及三十五年式海軍銃彈藥包ハ軍港遠隔ノ地ニ航行スルトキノ外艦内ニ貯藏スヘカラサル件 (三十五年九月艦本)

年度射擊並ニ教程ニ依リ消耗スル村田連發銃彈藥包及三十五年式海軍銃彈藥包(彈藥包形内筒砲彈藥包)ハ各艦船遠洋航海若ハ軍港遠隔ノ地ニ航行ノトキヲ除クノ外平素艦内ニ貯藏スルコトヲ避ケ成ヘク其必要ヲ生シタル場合ニ於テ搭載スルコト

三十二吋砲實彈射擊施行ノ節伺出ノ件 (三十年三月官房)

軍艦嚴島松島及橋立裝備三十二吋砲實彈發射ノ節ハ自今其都度伺出ツヘシ

十二吋安砲及八吋以下速射砲操練用彈丸裝藥等ノ件 (三十五年八月艦本)

令般海軍第三〇五〇號ヲ以テ十二吋安砲及八吋以下速射砲操練用彈丸裝藥及藥包砲二吋ニ付四發ツ、備テル事ニ相成候ハ畢竟實用彈丸ハ成ヘク操練ニハ使用モスル事ナシニ貯藏スルノ御旨趣ニ就テハ揚彈藥機操練ニモ成ヘク右彈藥ヲ使用スヘキコト  
備考 (三十五年八月橫鎮)  
右彈丸數ニシテ操練上尙ホ不足スル場合ニ於テハ各砲用ノ彈丸チ一二ノ揚彈機ニ結合スルカ若ハ年度射擊用彈丸ヲ便宜使用スルノ手段ヲ取ルモ差支ナシ

軍艦號砲并ニ信號用空放交附方ノ件 (三十一年四月官房)

各艦ニ於テ使用スル號砲若ハ信號用空放ハ自今其必要ニ應シ交付スル義ト心得フヘシ

信號及機關部員教練射擊施行方法及成績報

告方ノ件 (三十七年一月橫鎮)

小銃射擊教範第二編第四章第七十九項ニ依ル信號部員及機關部員ノ射擊ハ適宜ノ姿勢ヲ以テ二百米突ニ於テ五發二百米突ニ於テ五發ヲ發射セシメ其成績報告ハ小銃射擊第四表(小銃教練射擊成績表)ニ準シ調製スヘシ  
但シ等級ハ五十點以上四十點以上三十點以上二十點以上二十點未滿ノ五級ニ別チ射擊ノ



方法等ハ備考欄内ニ記入スヘシ

備考

舞鏡例規ニ示セルモノモ略同一ナリ但シ等級ハ五十點以上三十點以上三十點未満ノ三級ニ分ツテ異リトス

### 隊附將校彈藥消耗年額 (三十六年七月海總)

自今隊附將校ニ左記ノ彈藥ヲ年額トシテ消耗セシムルコトヲ得

モーゼル拳銃彈藥

二十發以內

拳銃射撃ノ爲メ射場ニ臨監スル准士官以上ニ

消費セシムルヲ得ヘキ實包數 (三十六年二月達)

明治二十三年八月達第百八十五號ニ依リ下士卒拳銃射撃施行ノ際射場ニ臨監スル准士官以上ノモノニハ自今五發以內ノ實包ヲ消費セシムルコトヲ得

### 霧中信號用空放ノ件 (一月官房)

自今四十七號米重連射用空放裝藥包(一箱)霧中信號用ノシテ七百グラム以上四百四十個

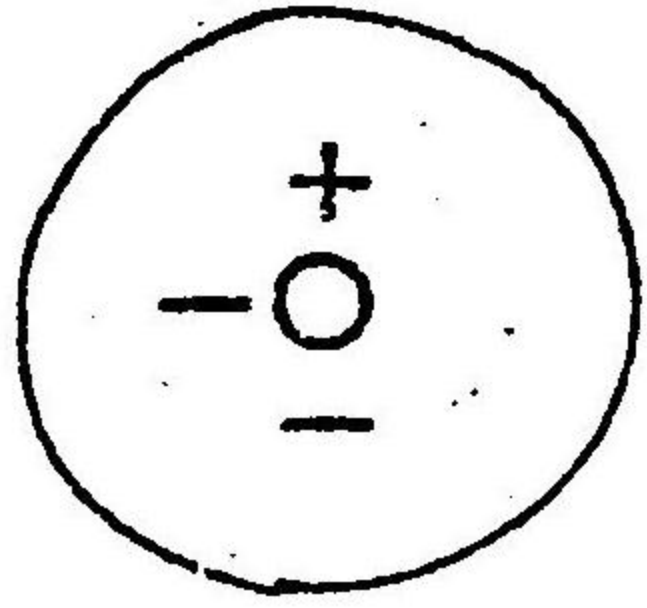
備フ但シ空放裝藥包四十個以下ヲ備フル艦ニ在テハ都テ之ヲ七百(グラム)入トシ霧中信號用ニ兼用ス

### 速射砲打殼藥莢符號ノ件 (二十七年三月達)

速射砲用藥莢ハ發射ノ後洗淨ノ上裝藥ノ種類ニ應シ莢底ノ周圍ニ左ノ符號ヲ刻シ使用ノ回數ヲ知ルニ供スヘシ

但シ此符號ノ太サ深サ等ハ識別シ得ルヲ度トシ成ヘク細小ナルヲ要ス

- 十 符號ハ全裝藥
- 一 符號ハ減裝藥
- 一 符號ハ空放藥



### 大津射的場使用規則摘要 (橫鏡例規)

第一 大津射的場ノ管理ハ工廠造兵部武庫ノ所掌トス



第二 大津射的場ハ海軍小銃射擊教範ニ依ル教練射擊ヲ施行スル所トス

第三 艦團隊校所ニ於テ大津射的場ヲ使用セン時スルトキハ其施行期日射手員數ヲ詳記シ豫メ造兵部武庫ニ通知シ射擊證ノ交付ヲ受ケ射擊施行ノ際該場番人ニ示スヘシ

### 小海射的場ニ於テ拳銃射擊施行ノ件 (二十二年二月横領)

小海射的場ニ於テ拳銃射擊ニ限リ施行スルコトヲ得

### 不入斗陸軍射的場借用并ニ同手續ニ關スル件

(三十五年六月横領)

不入斗陸軍射的場ヲ借用セントスル艦團等ハ直接要塞砲兵聯隊ヘ照會其差支ノ有無回答ヲ得テ使用スルコトヲ得

### 明治村辻堂ニ於テ射擊ノ際方向注意ノ件

(二十九年四月横領)

高坐郡明治村辻堂海岸ニ於テ射擊施行ノ際ハ明治村濱竹高砂ト辻堂高砂トノ間ニ於テ成ル海面ニ向テ發射シ砲ヲ漁民ノ行動ニ危害ヲ與ハサル極取手ヲヘシ

### 日守村射的場使用概則摘要 (佐鎮例規)

第一 艦團及各部ニ於テ射的場ヲ使用セントスルトキハ其期日射擊ノ種類射擊距離等ヲ明記シ武庫ニ要求スヘシ

第二 前項ノ要求アリタルトキハ武庫ハ射的場使用券ヲ交付ス使用者ハ之ヲ同場番人ニ渡シ然ル後使用スルモノトス

第三 射的場使用期限ハ一回ニ付十日以内トス

### 長崎縣西彼杵郡淵村海軍射的場規則摘要 (佐鎮例規)

第一 長崎縣西彼杵郡淵村海軍射的場ハ佐世保工廠武庫之ヲ管轄ス

第二 海軍々人ニシテ射的ヲナサントスルモノハ長崎水雷敷設隊ニ通知シテ之ヲ使用スヘシ

### 舞鶴射的場使用概則摘要 (舞鎮例規)

第一 艦團隊ニ於テ射的場ヲ使用セントスルトキハ施行時日射距離及標的設置ノ數ヲ記載



シ武庫ニ請求シ射的場使用券ノ交付ヲ受クヘシ

第二 使用者ハ射的場使用券ヲ武庫掛員ニ示シ然ル後使用スルモノトス

第三射的場使用期限ハ一回七日以内トシ七日以上ニ及フトキハ其時々請求スヘシ

但シ雨雪天ヲ挾ムトキハ順延ス

### 上海居留地射的場ヲ借用シ得ル件 (三十三年一月旗普)

上海警備艦ハ警備中小銃射撃ヲ施行スルニ當リ差支ナキ日ニ於テ同地居留地射的場ヲ借用スルコトヲ得

### 移動白熱電燈ヲ彈藥庫内ニ持入ルヘカラサル件

(三十八年十月内令)

自今艦船ノ火藥庫及彈庫内ニ移動白熱電燈ヲ裝置シ或ハ他部ニ裝置セル移動白熱電燈ヲ帶シ同庫ニ入ルコトヲ禁ス

### 無煙火藥裝填ノ裝藥及彈藥類引換ヘノ件

一 各艦艇塔載無煙火藥裝填ノ裝藥及彈藥包類ハ毎二年ニ一回好機ヲ見計ラヒ全數引換ユヘシ

一 海軍工廠ニ於テ引換還納ヲ受ケタルトキハ小銃彈藥包ヲ除キ全數分解ノ上直接ノ日光ヲ避ケ一週間乃至二週間風晒ヲナシ検査ノ上其成績ヲ海軍艦政本部ヘ報告スヘシ

一 検査終了ノ上ハ各箱ニ種目及裝藥量等ヲ明記シテ貯藏シ其錯雜スルヲ防クヘシ

### 兵器簿中大砲用空包削除ノ件 (三十九年四月達第五十五號)

各艦艇兵器簿中大砲用空包ヲ削除ス

但シ霧中警戒用等ニ要スル空包ハ隨時供給スルコトヲ得

### 艦艇火藥庫内空氣交換ノ件 (三十九年五月官房第一七六六號)

艦艇火藥庫内ノ空氣ハ常ニ乾燥新鮮ニ保ツヘキハ勿論ナレトモ無煙火藥ヲ貯藏スルモノハ殊ニ茲ニ注意スルヲ要ス該火藥ハ久シク高熱度ノ内ニアレハ自然變質ヲ來シテ瓦斯ヲ發散スルニ至ル故ニ自今適當ノ時機ヲ選ミ每週二回以上必ス庫内ノ空氣交換ヲ行ハシムル機取計フベシ



258  
213

製 複  
許 不

明治四十年十月二十日印刷  
明治四十年十月廿五日發行

海軍砲術學校編纂

發行者

印刷者

印刷所

發行所

股 野 三 藏

佐 脇 七 之 亮

三 生 舍

海軍御用圖書出版所

軍 港 堂 本 店

軍 港 堂 出 張 店

軍 港 堂 支 店

軍 港 堂 支 店

新 舞 鶴 餘 部 本 町 二 丁 目 大 島 商 店

神奈川縣三浦郡橫須賀元町通沙留  
東京市芝區愛宕町三丁目一番地

東京市芝區南佐久間町二丁目九番地  
橫須賀市元町通り沙留官舎向

吳市和庄町七丁目

佐世保市常盤町野口書店







横須賀軍機堂本店製版



掌  
砲  
要  
務

052714-000-8

特15-803

掌砲要務

海軍砲術学校/編

M40

BFH-0198

